

同窓生
シリーズ

74

甲斐田ゆき
かいだ

◆プロフィール

ナレーター・声優
芸術学士。
JFN『渡辺貞夫
Nightly Yours』
案内役。

TV-CFナレーション
等多数。近年は
『テニスの王子様』
『Axis Powers ヘ
タリア』等アニメ
ーションを中心と
して声優業も。

新宿駅南口からの通学路：随分小ざっぱりしたものだ。昔の知人がいつの間にか垢抜けていたような寂しさを少しだけ覚える。ただ明治通り沿い、当時に年代物だったビルが今も変わらぬ佇まいをみせている。《整音スタジオ》、録音をする所であろう事は想像がついたが、昔の認識はその程度だった。

在学中、私は舞台を志せるなら志したいというぼんやりした夢を抱え演劇部に籍をおいた。OBには演劇界で注目の早稲田の劇研に入った方や新進気鋭であった野田秀樹氏の劇団や他にも人気の小劇団に所属された方々がおられ、影響を受けると同時に自分も何かの形で関われるのではという謂れない自信を持ったものだ。時代はポストアングラ、小劇場全盛だった。進路を演劇関係に絞る事を決めたが、大学進学はしなかった。理論だけではなく実技も学べて学士号を：と考えると選択肢は少なく「大阪芸術大学を受験したい」と言うと、母から「日本にいるなら家から通いなさい」という不思議な答えが返ってきた。海外はその限りではないと？放課後、留学関連の機関に通ってアメリカの大学の資料を閲覧した。演劇が専攻できる大学は向こうでは珍しくない。いくつかの入学許可を早々にとって、バイトとタイピングの練習に明け暮れた3年後期。そして

留学、無事に学士号は取得したものの、帰国しても夢の舞台では生活が成り立ちそうにない：思い切るなら今かと思いついた頃、ナレーションの仕事が舞い込んできた。まだ業界にバイリンガルが少なく、バブル景気も手伝って、留学レベルでも現場を次々と与えられたのは幸運としか言い様がなない。こんな仕事があったかと嬉しい驚きだった。好きな事を続け、流れに身を任せていたら、流れが自分の居場所に運んでくれたように感じた。さらに出逢いは出逢いを呼び、声優業にもご縁が生まれた。そして、母校の近く昭和の佇まいそのままの《整音スタジオ》に通う機会が訪れた。そこはアニメーションの収録等を行うアフレコスタジオだった。高校時代毎日目にしていた建物で仕事をする事になるうとは：。下校中の後輩達の姿に声でもかけたい衝動から来て、ふと思う。あの頃こういう仕事をすると想像もしていなかった。見えない未来は、無限の未来の可能性でもあったはず。道の途中ではあるが、無限の可能性があるとはいない辛い世代に入ってきた。後輩達は、予想もつかない未来に向かって軽やかに歩み出しているのだろう。そしていつか、思いがけない場所で、ふとした瞬間に、自分の中の母校の存在を感じたりするのだろうか。今の私のよう。